

# 第5回 阿賀野川自然再生検討会

## 説明資料



阿賀野川河川事務所

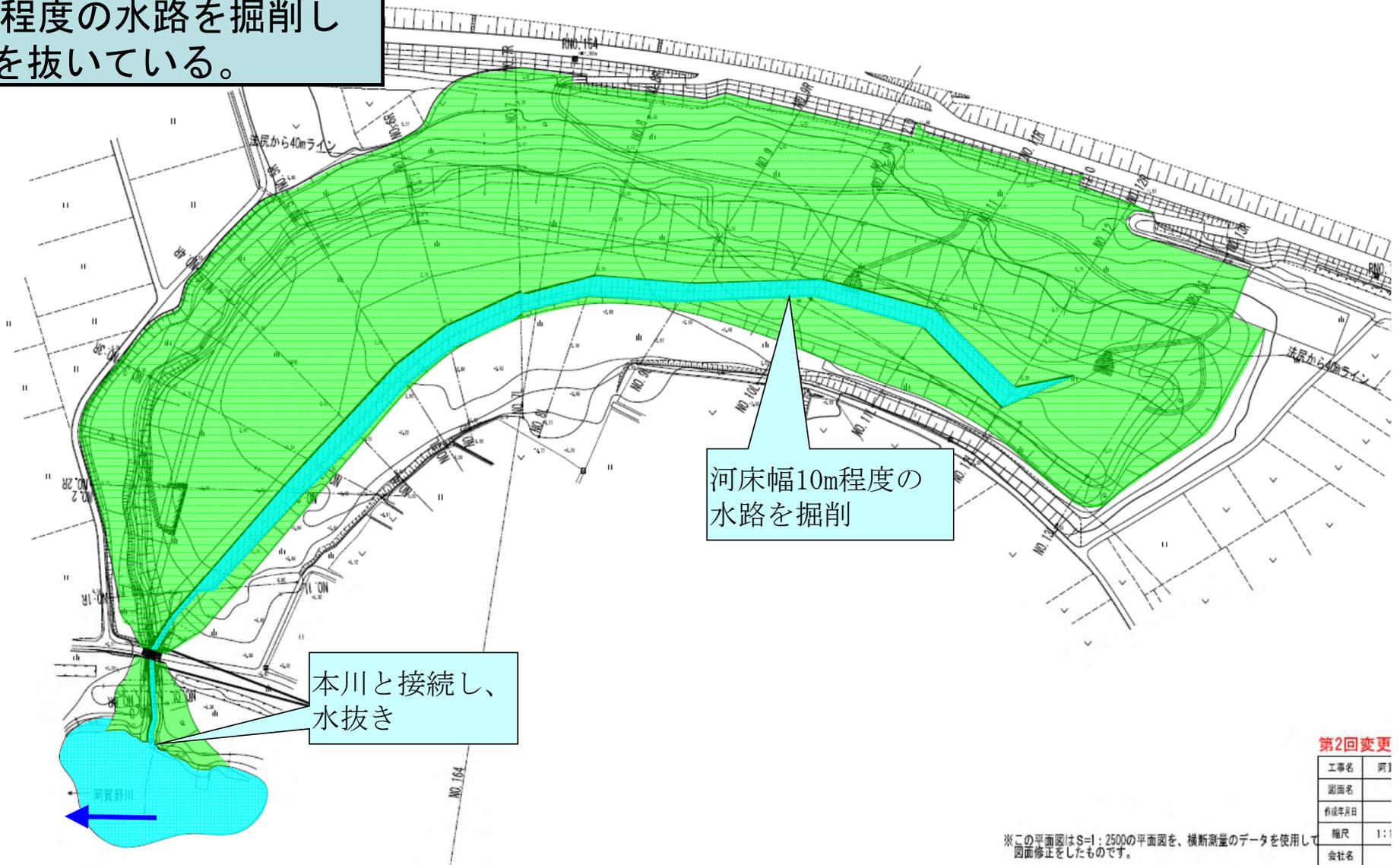
平成26年3月



## 工事状況

- ・湧水量が非常に多く、かつ軟弱地盤のため、工事が難航している。
- ・幅10m程度の水路を掘削し、水を抜いている。

## 今年度の工事進捗状況



第2回変更

工事名	阿賀
図面名	
作成年月日	
縮尺	1:1
会社名	

※この平面図はS=1:2500の平面図を、横断測量のデータを使用して図面修正をしたものです。

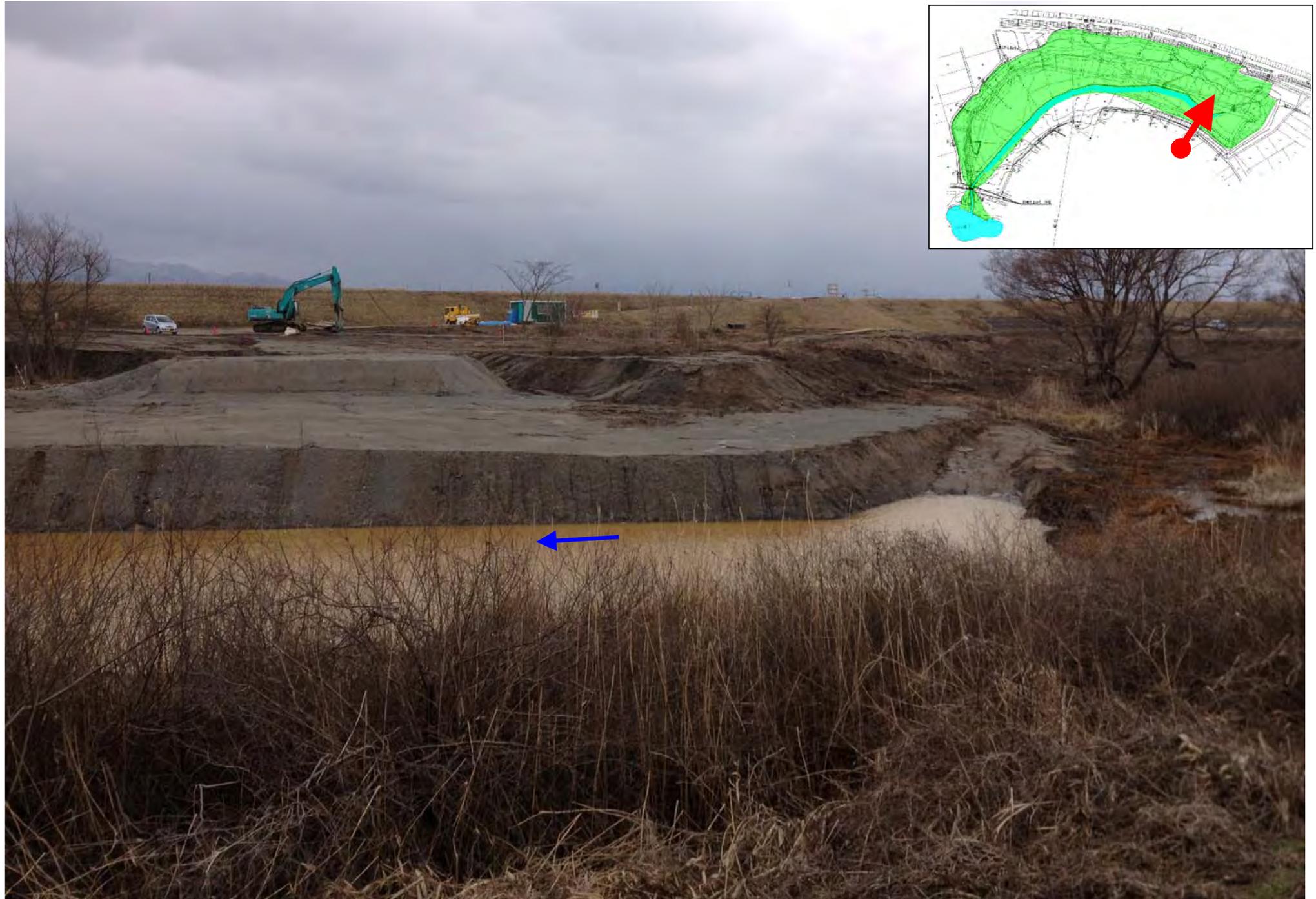
# 1. 2 現在の工事状況



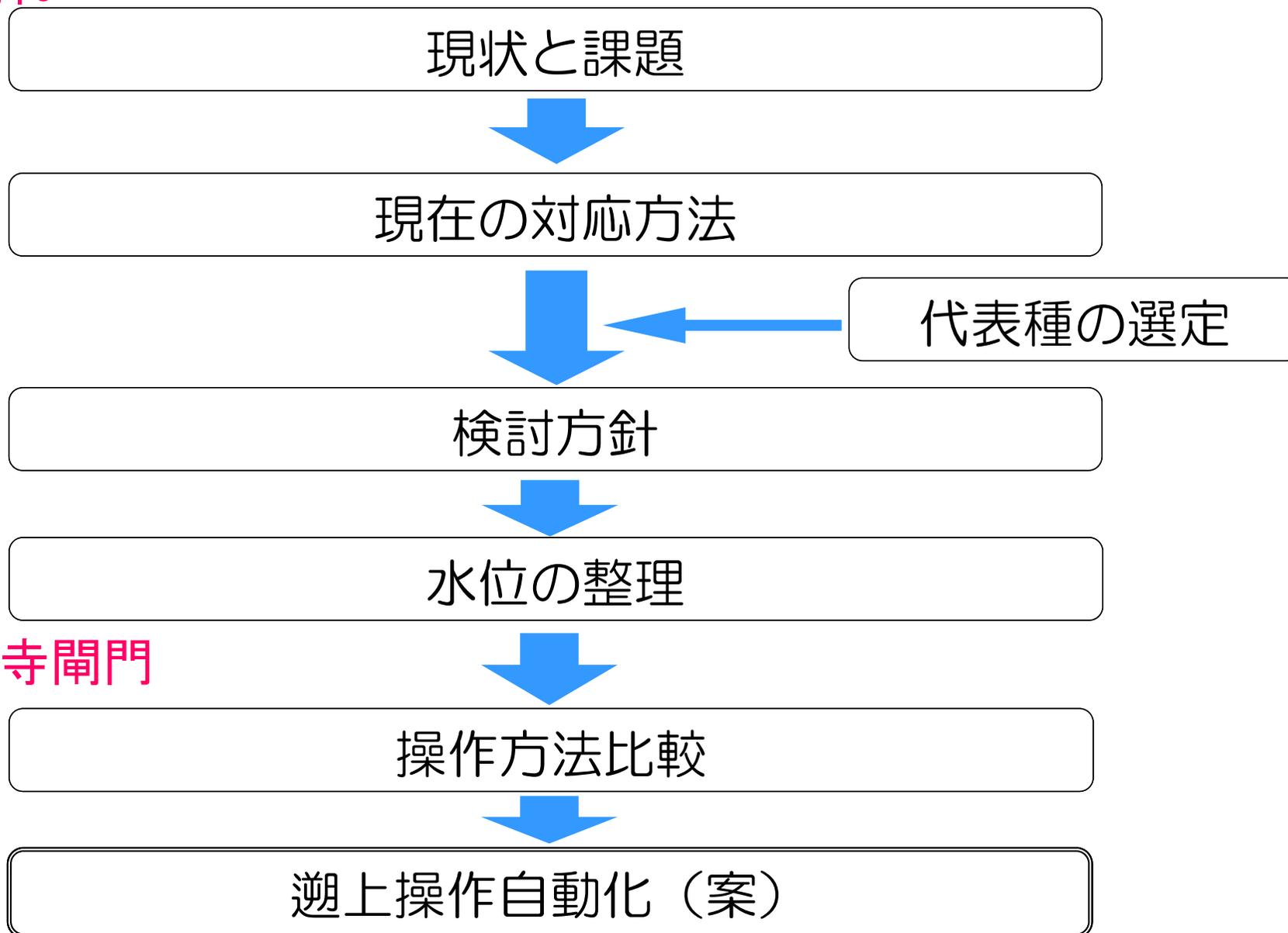
# 1. 2 現在の工事状況



# 1. 2 現在の工事状況

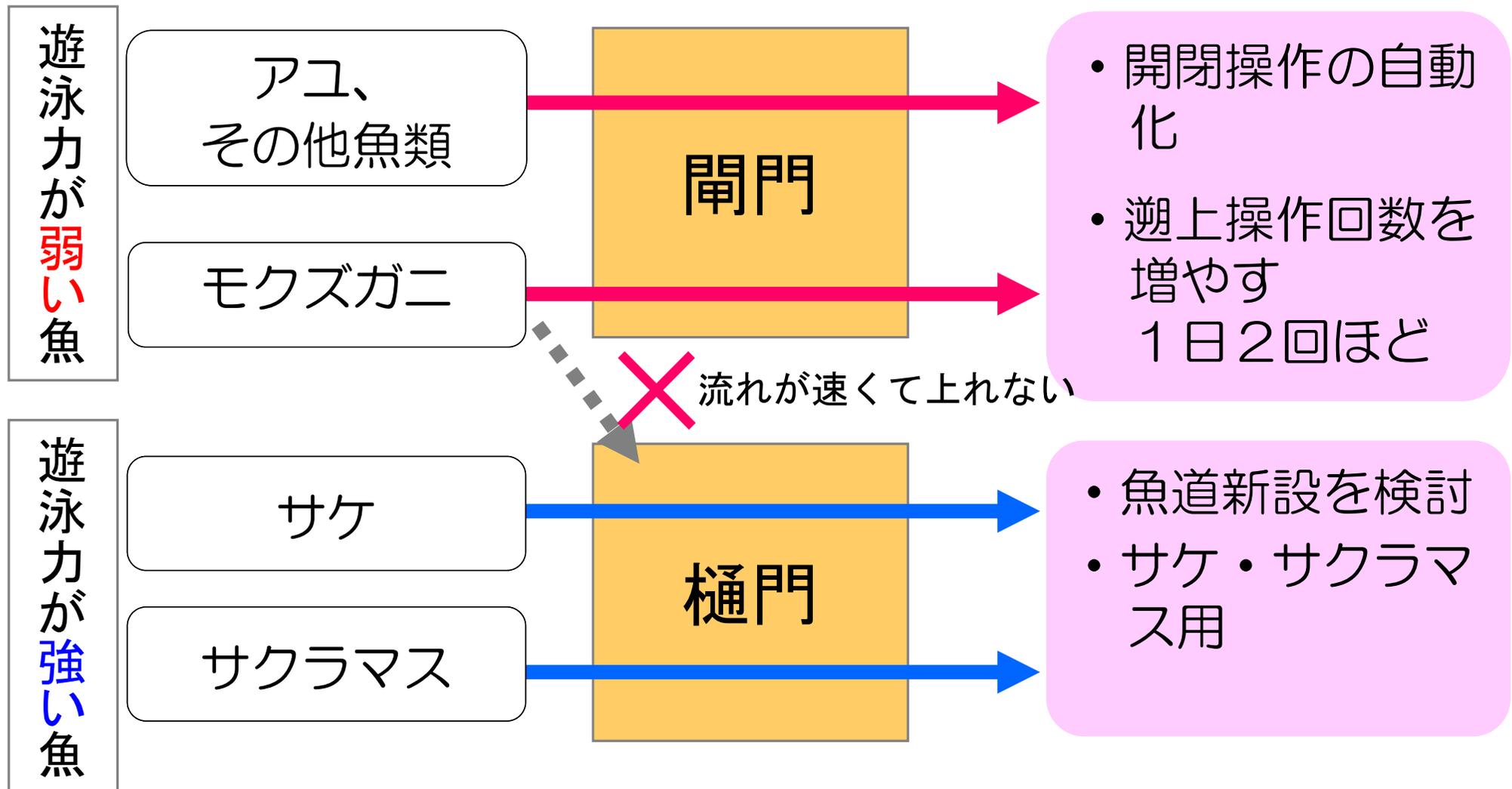


### 検討の流れ



### 満願寺閘門

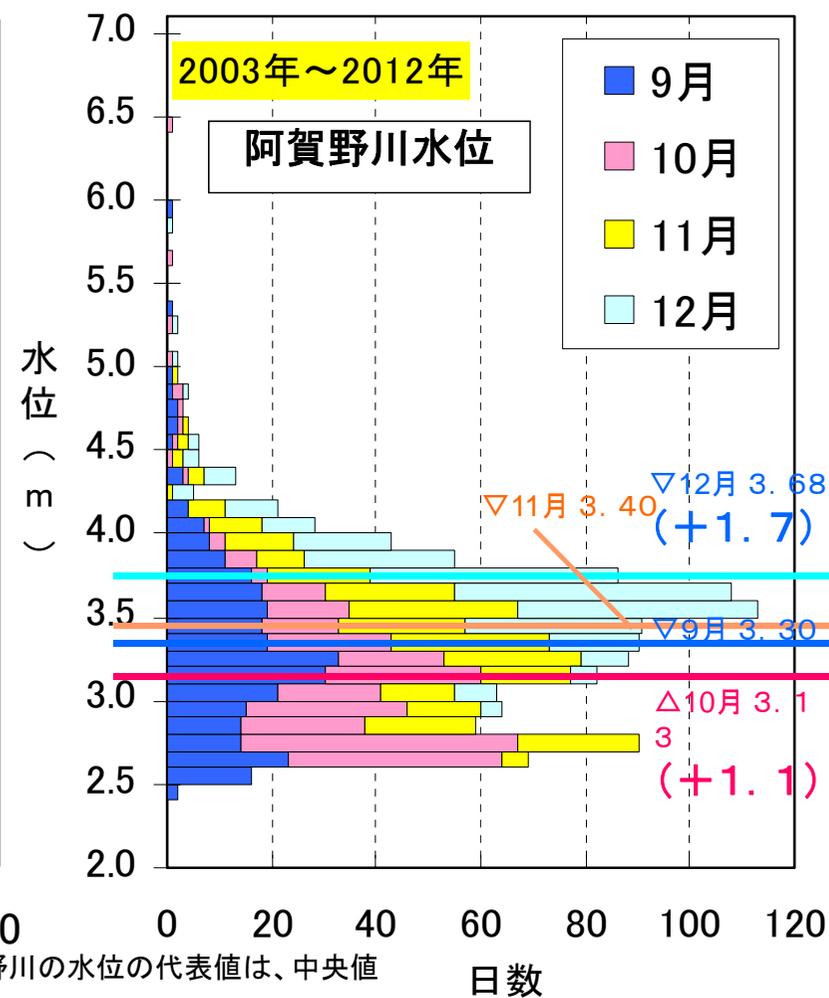
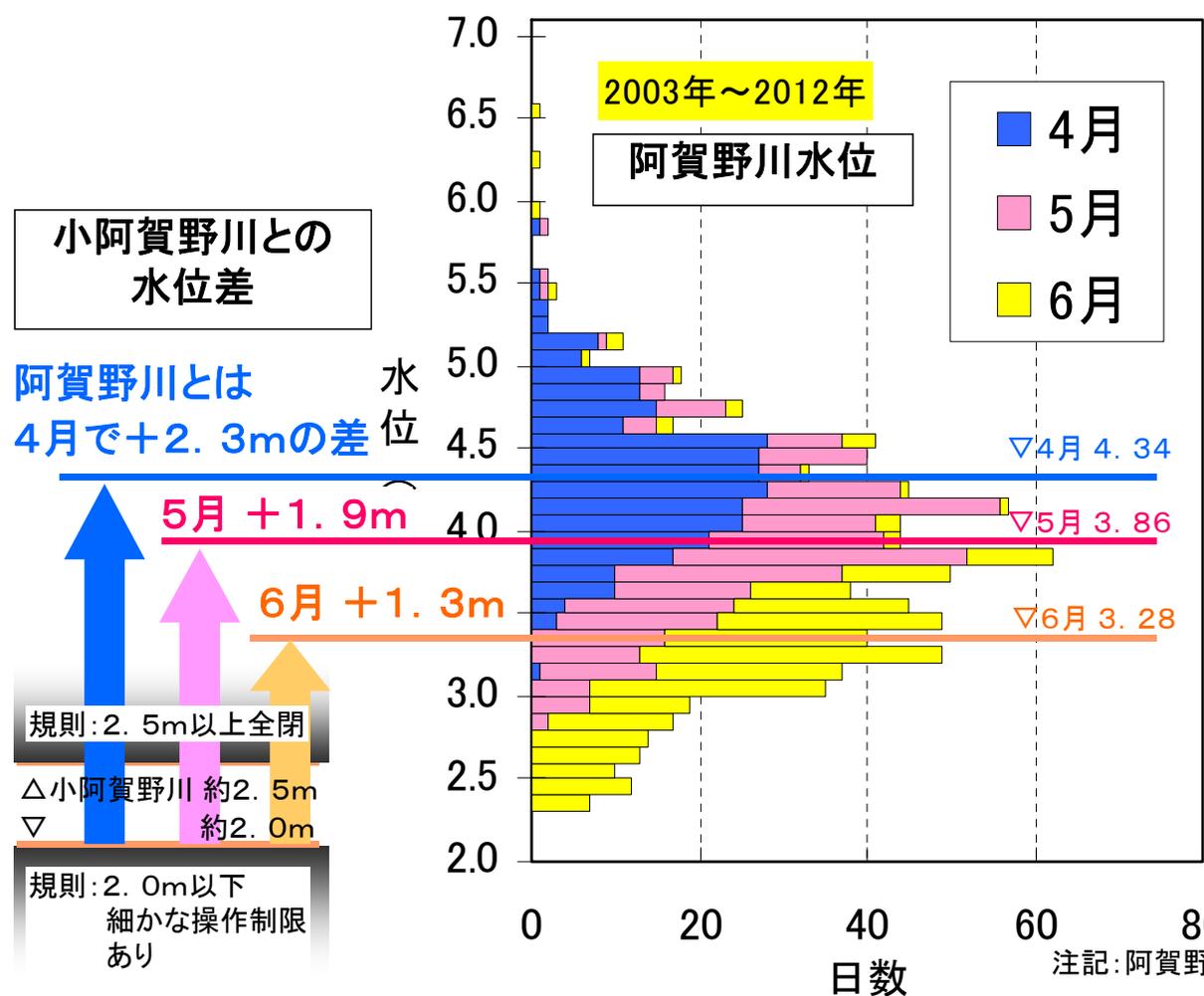
- ・ 樋門と閘門とで、役割を分ける。
- ・ 遊泳力の弱いアユ、モクズガニ、その他魚類は閘門を遡上させる。
- ・ 遊泳力の高いサケ、サクラマスは樋門魚道を設置して遡上させる。



- ・ 小阿賀野川の水位は、年間を通して、2.0～2.5mの範囲。この範囲を超えないように規則による流量調整がなされている。
- ・ 4～6月は、阿賀野川は小阿賀野川より、1.3～2.3m高い水位差がある。
- ・ 9～11月は、1.1～1.7m高い水位差がある。

【4～6月】アユ、サクラマス、モクズガニ遡上期

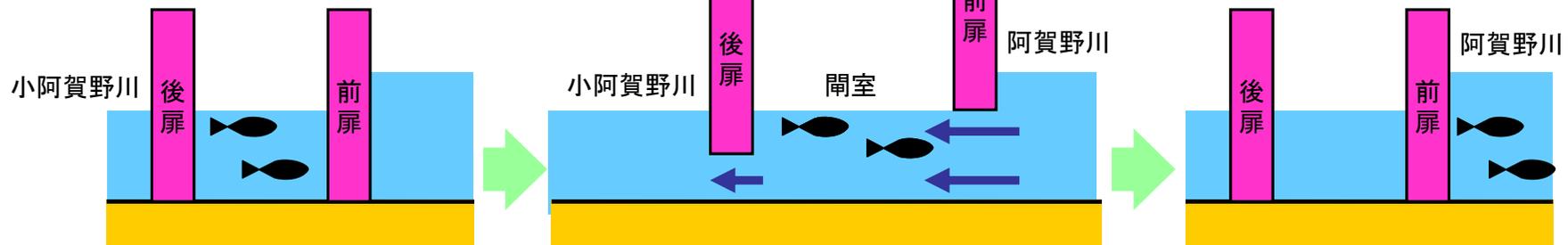
【9～12月】サケ遡上期



- ・魚を遡上させるためには、水の流れを作ってやる必要あり。アユの場合、0.5m/s前後
- ・流れをつくるためには、2つのゲートを同時に開けるフラッシュ操作と、バイパスゲートを使う遡上支援操作の2つあり。→メリット・デメリットがあるため、水位条件によって、組み合わせる。

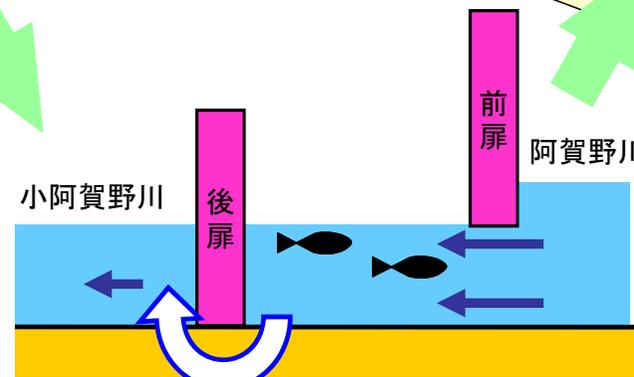
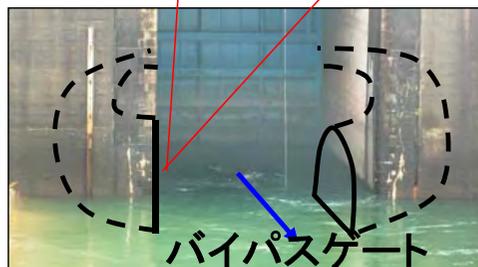
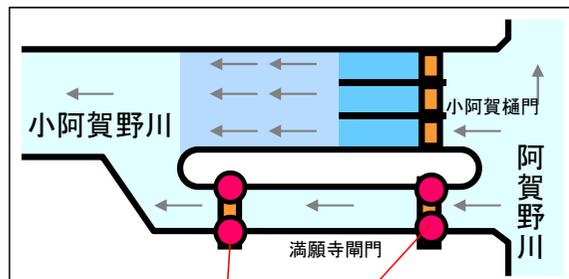
### フラッシュ放流操作

※ 現在手動にて、実施している方法



メリット: 泥のフラッシュもできる。  
デメリット: 2つのゲートを同時に開ける。

### 遡上支援操作【今回立案】



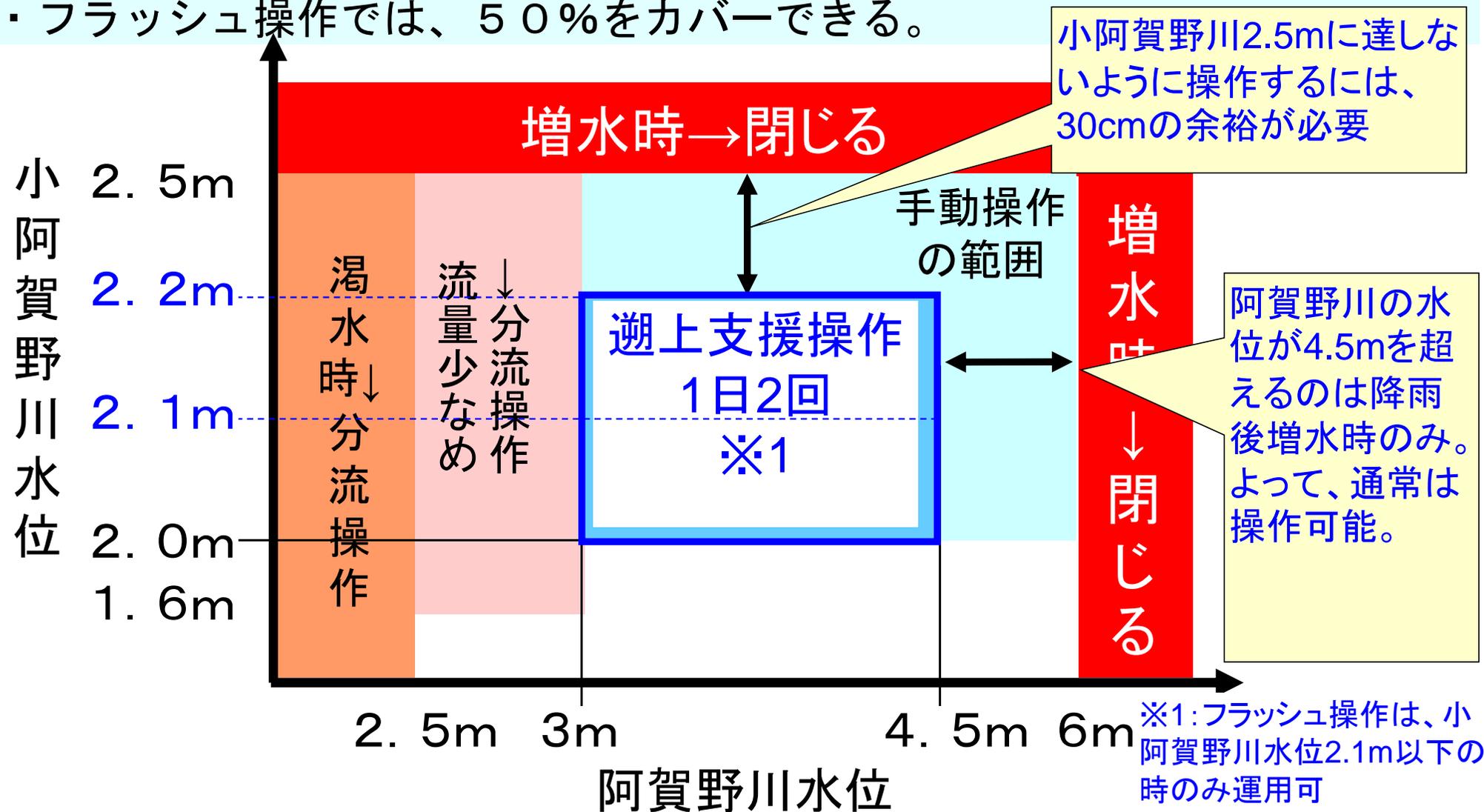
バイパスゲート

メリット: 2つのゲートを同時に開けずすむ。  
・バイパスゲートの操作性は、機械的にほぼ同じ。

デメリット: 泥がフラッシュできない。

## 2.4 満願寺閘門の遡上支援操作(案)

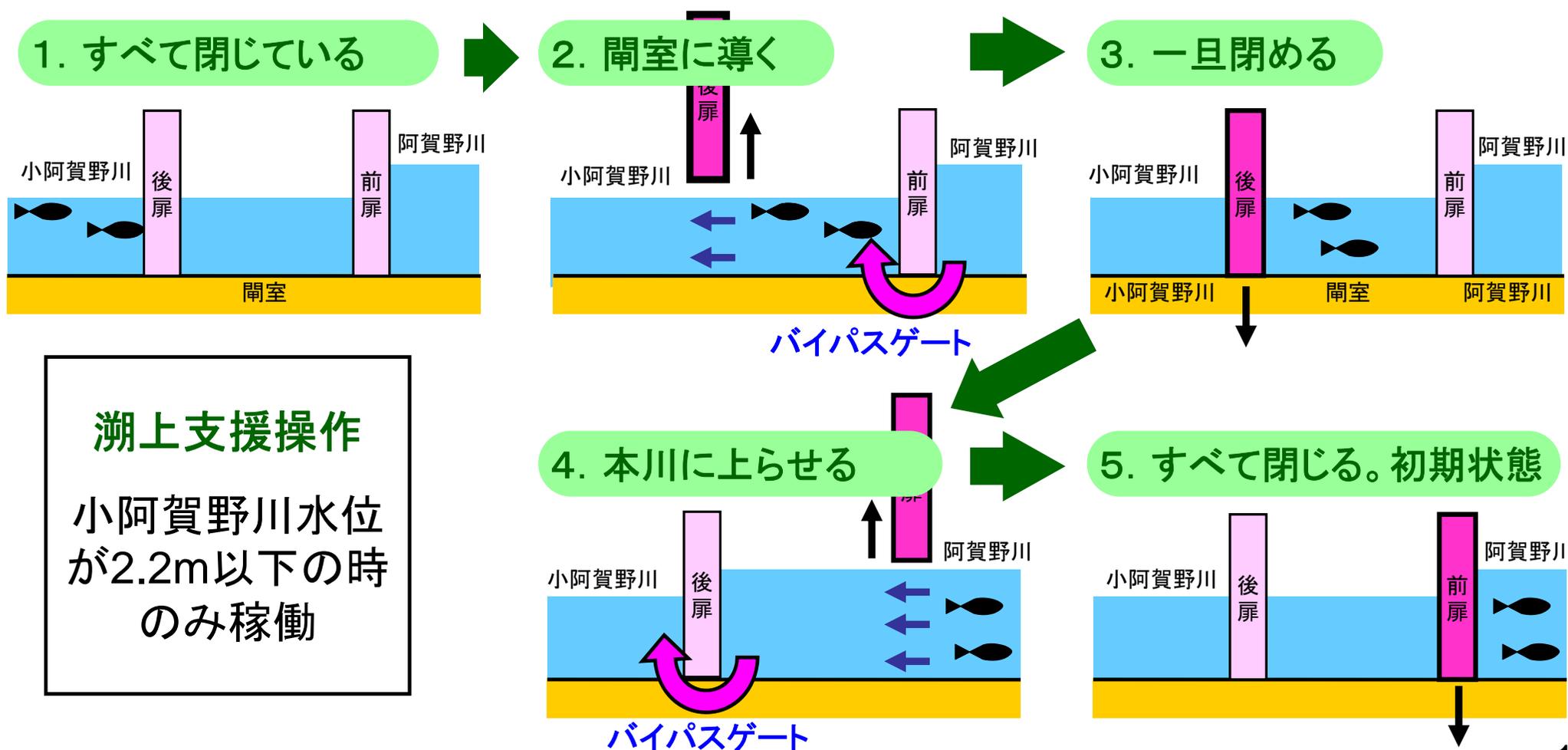
- ・ 操作上の余裕代を確保し、2つの川の水位条件が揃うときに、稼働させる。
- ・ 1日2回稼働できるようにする。
- ・ 遡上支援操作により、**アユ遡上期の80%の日をカバー**。
- ・ フラッシュ操作では、50%をカバーできる。



## 2.4 満願寺閘門の遡上支援操作(案)

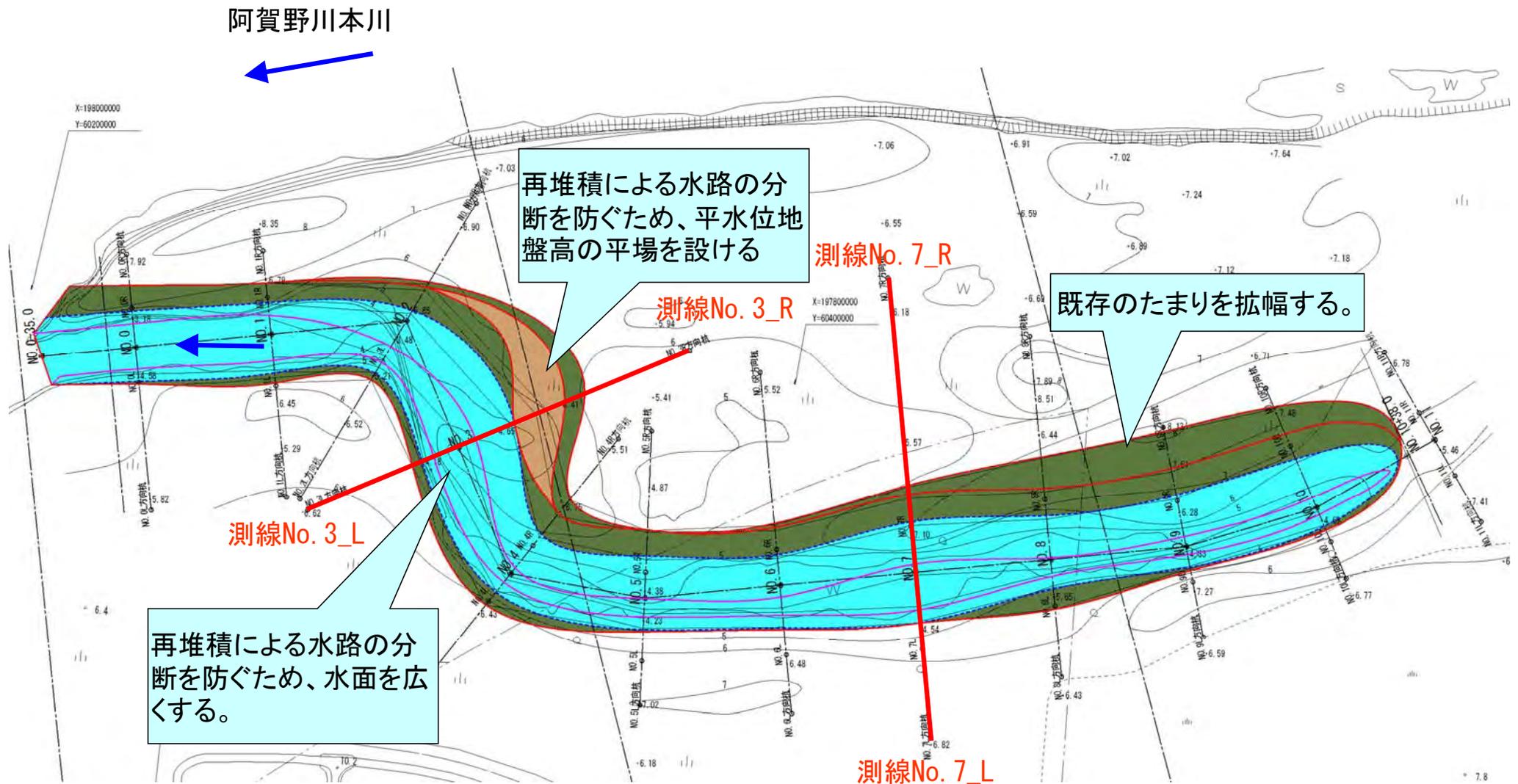
支援操作により実施回数を増やすことができるようになる。 アユ以外の魚類にも配慮し通年稼働を目指す

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
通船操作												
フラッシュ操作							サケ遡上期は休止					
遡上支援操作												



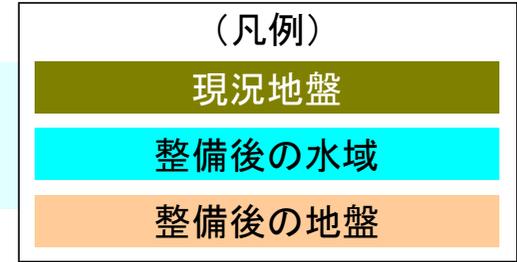
### (1)高山地区ワンド再生図面(平面図)

- 既存のワンドとたまりを接続し、長さ約600mのワンドを再生する。



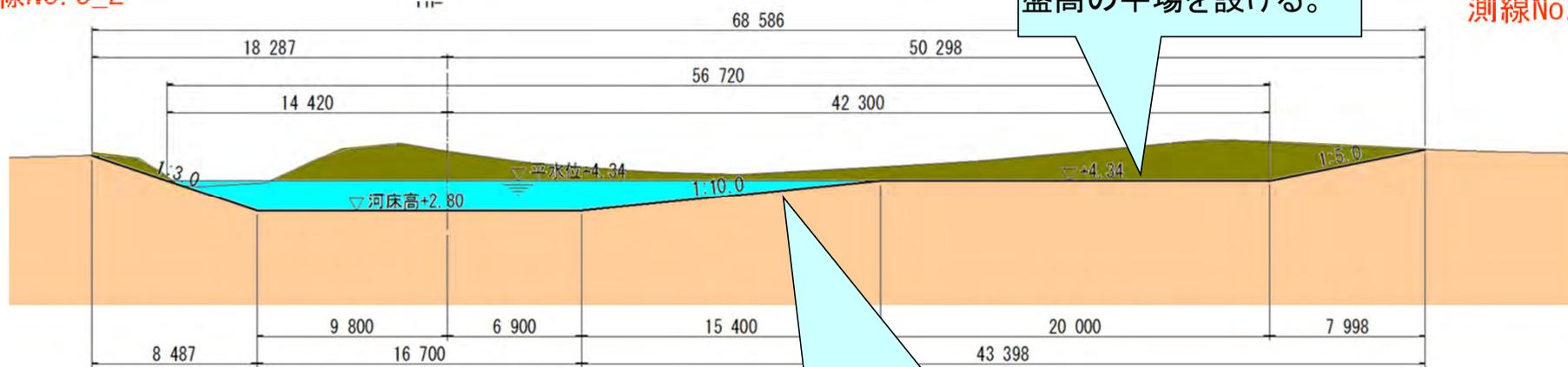
### (2) 高山地区ワンド再生図(横断図)

- 河床幅は約7~17m、水面幅は約26~37m確保する。



測線No. 3\_L

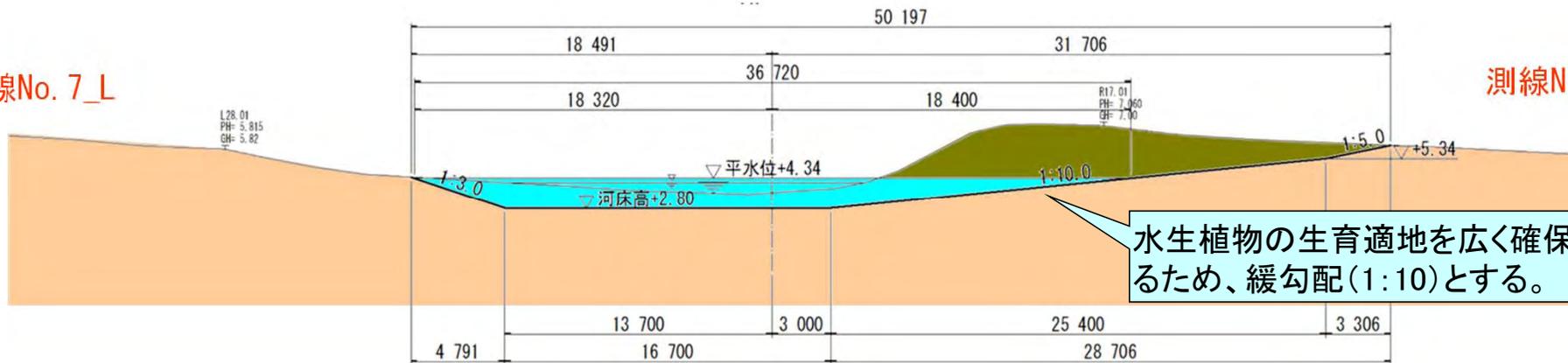
測線No. 3\_R



水生植物の生育適地を広く確保するため、緩勾配(1:10)とする。

測線No. 7\_L

測線No. 7\_R





(2) 笹掘地区砂礫河原再生 掘削工事前後の現地状況

